
タマゴトリップ

三隅潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タマゴトリップ

【Nコード】

N4732BA

【作者名】

三隅潤

【あらすじ】

こたつでダラダラ過ごしてたら、いつの間にか砂漠！？白猫と大きな女の子が異世界を旅します。処女作ですので、駄文続きになりますが、寛大な目で暇つぶしに見て下されば幸いです。

ブローグ

ノゾミは自室で、こたつに入ってテレビを見ていた。

お風呂も晩ご飯も済ませ、パジャマの代わりにジャージを着ている。
ジャージ姿なのはいつものことだ。

小学生のころから陸上をして、更に食っちゃ寝ばかりしていたせい
か、

身長は大学生になるころには175cmまで伸びていた。

女のわりに大きな体に似合うパジャマなどなかった。

もう少しで日付が変わろうかという時、こたつの中から白い猫が顔
を出す。

「あ、シロミ。あんたどこに行ったのかと思えば、またこたつには
いったの」

白猫のシロミは返事をするようにミャオと鳴く。

シロミの名前は全身真っ白な美しい猫ということで、
漢字で表わすと「白美」である。

だがシロミという名前の理由はそれだけではない。

私の名前は「ノゾミ」というが、漢字で書くと「希美」だ。

キミとも読める。だから私の名前にちなんでシロミ。

私とシロミで、黄身と白身の出来上がりだ。

なんともこじつけのようなダジャレのような…。

名付け親は、2人（1人と1匹）とも私の母親である。

「人の名前で遊んじゃうなんて、ひどいよねー」

脚の上ののったシロミを撫でてやる。

シロミはうつとりとした表情だ。

「おっと、もう12時だね。そろそろ寝ようか」

時計が12時を指した…その瞬間。

落下するような感覚。

尻もちをつく格好になる。

落下の衝撃はそれほどなかった。

「何今の——」

そこはもう自室ではなかった。

「なんで私砂漠の真ん中なのー！しかもこたつに入っただまだし！」

「大丈夫？ノゾミちゃん？」

「え、何、今誰がしゃべったの？」

「あれ、私が何言ってるかわかるの？どうしちゃったのかしら……」

確かにその声はすぐ横にいる白猫から発せられている。

「シロミ…しゃべってんじゃん！どついうことー？これ夢？」

「夢じゃないと思うなあー。落ちた時の痛みあったでしょ」

「あ、そうね。まだお尻痛いな……」

夜の砂漠。頭上にはきれいに真ん丸なお月さま。

砂漠の見渡す限りの砂漠に、ポツンと

こたつと、しゃべる白猫に、ジャージ姿の大きな女。

「もう、突っ込みどころ多すぎるけど、けど、なんじゃこりゃー
ー！ー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4732ba/>

タマゴトリップ

2012年1月12日22時49分発行